

消防だより

火

の用心

Tokamachi Fire Department

No.102



令和3年7月5日

特集

河川の危険

毎年、水難事故は7、8月に多く発生し、その9割が海や河川で起きています。そして、子どもの水難死亡事故の約5割は河川で起こっているのです。



—特集— 河川の危険

危01

えぐれた岩

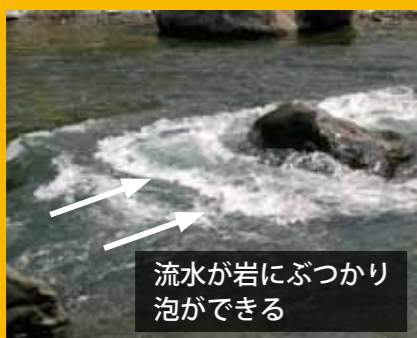


流水による侵食で下側がえぐれた岩に近づくと、図のように岩の下側に吸い込まれて非常に危険です。



流水が岩の下に落ちるため泡ができない

ぶつりの音



流水が岩にぶつかり泡ができる

2%



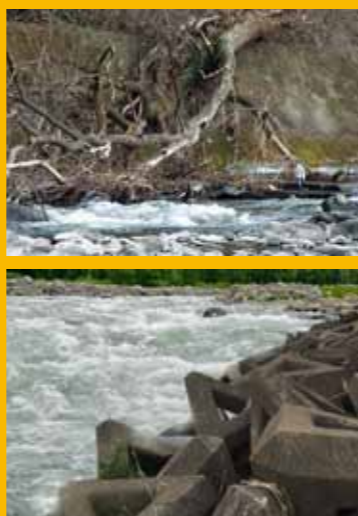
水難死亡事故の多くは溺死

河川の水（真水）と海水の違いは、浮くか浮かないかです。真水1に対し、人の比重が0.98で、人間の体は2%程度が浮くことになりません。

さらに、水中では時間とともに急激に体温が奪われ、低体温症を引き起こすことがあり、重症化すると、命に関わる事態となります。

危02

倒木、テトラポット

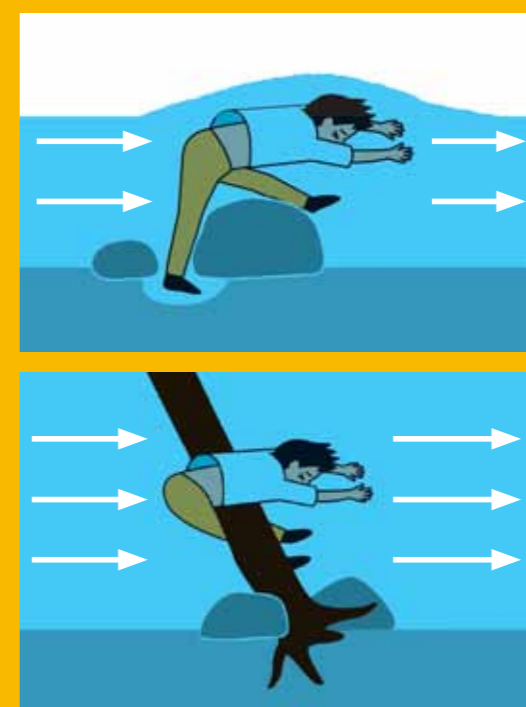


河川に倒れこんだ木の枝や根は、水中でザルの様に水は通すが物体は留めてしまう障害物となります。特にテトラポットは、一度引っかかると、水圧でほぼ抜け出せません。

危険な箇所 に近づかない!!

危03

流れが急なところ



川底の岩やくぼみに足をとられて、身動きがとれなくなることがあります。水圧を受けて上半身が倒れ、顔が水中に入り続けてしまいます。たとえ水深が腰の高さ程でもこのようなことが起きます。倒木、テトラポットで抜け出せなくなる原因はこういうことです。命の危機的状況となります。

危04

人工構造物



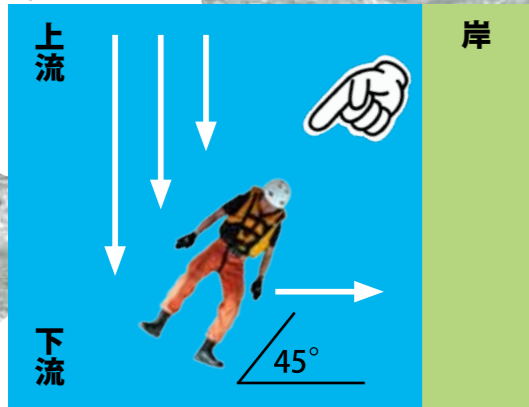
この堰堤（えんてい）と呼ばれる人工構造物は、下に落ちた水が上流方向に回転する強力な流れとなり、この空気を含んだ泡のエリアに入ってしまうと、人やボートは抜け出せなくなります。また、浮力の40〜60%を奪われ、ライフジャケットも意味を成しません。ここに近づいたり、飛び込んだりなど、絶対にしてはいけません。



ライフジャケットなど、浮力のあるものを装備する。水の流れが速く、水深が腰高まであるところには絶対に近づかない。

流されてしまったら

体を45度に



万が一流されてしまったときは、上のように足を下流側に向けた姿勢をとります。足を前にすることで、岩などの障害物から身を守ります。また、体の角度を流水に対して45度に傾ければ水圧で岸に近づけます。



わたしたち消防士は、水難事故が発生した際、迅速に対応するための訓練をしています。過去の水難事故を教訓に、年々救助方法や資機材も進化しています。しかし、ここで紹介したように、水の中は大変危険です。河川の正しい知識を持って、安全なレジャーを楽しんでください。

消防本部からお願い

緊急時は、 「119番」での 通報をお願いします。

▼命を救うダイヤル「119番」

火災、救急、救助などで消防車・救急車が必要なときは、**119番**通報をしてください。119番を受信すると、指令員が必要なことをすばやく聞き取り、消防車や救急車などを出動させます。

消防本部や最寄りの分署の一般電話に緊急通報した場合、出動する隊員が電話対応するなど出動が遅れたりすることがあります。緊急通報は「119番」にかけてください。

▼指令員の聞き取りにご協力を

119番の聞き取りを行う際に、患者さんの状況や火災状況等を詳しくお聞きすることがあります。これは、救急隊が患者さんの処置や病院選定、消防隊が現場活動の方針を決定するための大切な情報となります。落ち着いて指令員の質問にお答えください。



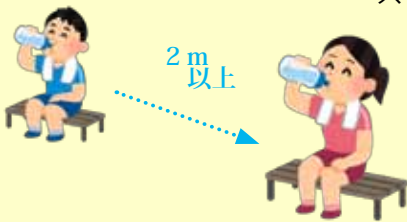
熱中症にご注意を

新型コロナウイルス感染症予防対策のためのマスク着用が原因で、熱中症になるケースがあります。高温多湿の環境下で、熱中症のリスクが高くなりますので十分注意が必要です。

感 染症予防のため、冷房使用時も換気が必要で、換気時は室内温度が高くなるので、熱中症予防のためエアコンの温度調節をこまめに行いましょう。



気 温や湿度が高いつきのマスク着用は、熱中症のリスクが高まります。屋外で人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できるときは、熱中症のリスクを考慮し、マスクを外すようにしましょう。



赤色灯

【大雨・台風対策について】

初夏から秋にかけては、台風や前線の影響で、大雨や洪水、暴風などの自然災害が発生しやすい季節です。十日町市でも、平成23年7月に発生した新潟・福島豪雨の際には、1時間あたり121mmの大雨が降り、甚大な被害となりました。

このことを教訓に、今一度地域のハザードマップで、浸水の範囲や深さ、避難に関する情報などを確認しておきましょう。

また、いざという時のために非常食や懐中電灯、ラジオなどの非常用持ち出し物品を準備しておくことも重要です。

皆さん一人一人が自らの命を守り、家族や大切な人の命を守るためにも、災害に対する備えをきちんと行っておきましょう。

【池田】



消防だより
火の用心

発行 十日町地域消防本部 〒948-0007 新潟県十日町市四日町新田-4-1番地
編集 総務課企画広報係 電話 025(757)0119 FAX 025(757)8499
ホームページ http://www.tokamachi-kouiki.jp/ E-mail ttd119@tokamachi-kouiki.jp